

## スクランブル交差点

「渋谷のような学校にしたい。」作文のテーマを見た瞬間、私はその思いが真っ先に浮かんだ。渋谷と聞いて驚くかもしれないが、それには理由があるのだ。

渋谷は外国人の人気観光スポットとなりつつも、実際の日本人にとっても主要な交差点のような街。そして、渋谷ではいろんなお店や風景からアニメなど様々な日本の文化が象徴されており、日本と世界がつながっている場所とも言える。そんな渋谷のような学校が、私の理想な学校だ。

私は実際中国の現地校に通い、思ったことがある。まず私の通っていた学校ではクラス替えがないことだ。それは同じ仲間とより深い関係になれるというメリットがあるが、イベントが少ないので、他の人たちと交流する機会があまりなく、小規模な環境で勉強だけをしている。このような教育方針は何のためなのだろうか。それは、中国の「中考」と「高考」のためだ。つまり日本語でいう「高校受験」と「大学受験」。「この二つの受験が人生を決める。」と思っている中国人が大勢いる。だが私はそれはとてももったいないことだと思う。なぜなら学校は1人では学べないことを学ぶことができる大きなチャンスなのだ。だから日本で盛んな部活動や行事、これらが大切な存在となってくる。

そこで私は日本従来の部活動に変化を加えたいと考えた。日本の文化に他国の文化も入れてみるのだ。例えば、韓国のテコンドー部、アメリカの国技であるアメリカンフットボール部、スペインならではのフラメンコダンス部、またはいろんな国の民族衣装を作ったり撮影したりする国際衣装部などを加えてみたい。このような部活動を通して、世界のスポーツや文化と実際に触れ合ってほしい。そんな国際性や多様性が溢れる部活動をたくさん増やしていきたい。

そして私は、学校で学生たちのボランティア精神を育てていきたい。だから海外ボランティアで外国の子供達と触れ合い、支援活動を行ったり、日本に旅行に来た外国人たちをガイドするなど、学んできた英語や外国語を活かせるボランティア活動を行いたい。それは異なる国での生活や習慣を知ること、さらに視野が広がり、積極的に社会に貢献できる人を育てることが出来ると思ったからだ。このようなボランティア経験は今だけでなく、今後の未来にも繋がるだろう。

私にとって学校は、ただ机に向かって勉強するところではない。ペンやノートを使うだけでは、学べないこともたくさんあるのだ。国際化しているこの時代では、知識があるだけでは足りない。私達は人間力も必要となってきている。だから皆の個性をお互い尊重し合い、学び合い、理解しあうことが大切となってくるわけだ。そして、それらをサポートすることが学校の役目だと私は考えた。

私は多様な背景を持った人たちが交差し合いながら成長し、グローバル化した社会の中の立派な一員となってほしい。だから私は、そんな人々に育てることが出来る、渋谷のような学校を作りたい。